

夏秋どりイチゴ栽培における培養苗の利用

園芸栽培部 野菜チーム TEL:022-383-8135

研究目的

夏秋どりイチゴ栽培で利用される四季成り性イチゴ品種は、ランナーによる苗の増殖が難しいため、苗の確保が難しいことや新品種を育成してもすぐに栽培面積を増やすことができないといった問題があります。

そこで、バイテク手法による組織培養で短期間に大量の苗が得られる培養苗を使うことによって、これらの問題を解決する技術を開発しました。

研究成果

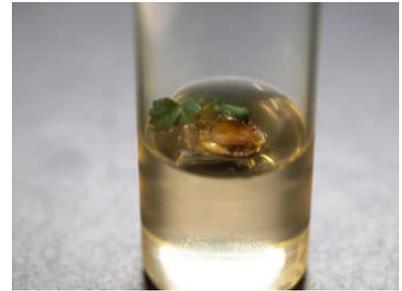
①培養苗の二次育苗容器

一般に培養苗は、組織培養により大量増殖した幼植物を128穴セルトレイに鉢上げし、本葉4~5枚程度に育苗された苗が流通されています。

この培養苗を直接本ぼへ定植すると茎葉のみが繁茂しやすく収量が劣るため二次育苗する必要があります。二次育苗には培地容量の少ない24穴セルトレイ（培地容量180ml）、35穴セルトレイ（130ml）も利用可能です。

②培養苗の鉢上げ時期

「デコルージュ」では定植年の前年秋に、「サマードロップ」では定植年の3月にセルトレイに鉢上げすることで慣行のランナー苗と同程度の収量を得ることができます。



培養した幼植物



購入した培養苗

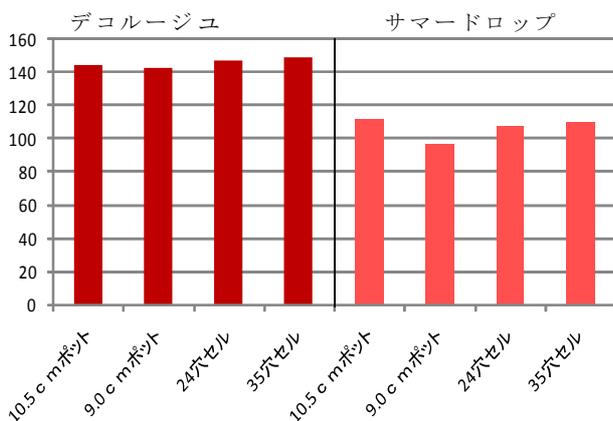


図1 育苗容器別株当たり商品果収量

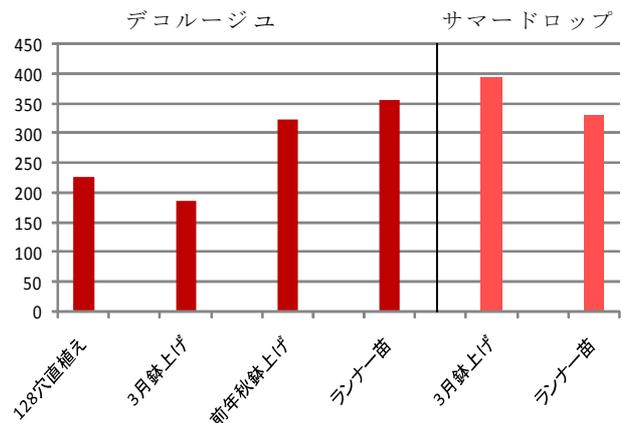


図2 苗の経歴別株当たり商品果収量

宮城県
農業・園芸総合研究所

宮城県名取市高館川上字東金剛寺1番地
TEL: 022-383-8111(代表) FAX: 022-383-9907(代表)
ホームページ: http://www.pref.miyagi.jp/res_center/
E-mail: marc-fk@pref.miyagi.jp(代表)

